

棧敷女房御返事

御書新版 1704ページ 11行目〜1705ページ 2行目
御書全集 1231ページ 9行目〜12行目

（無量無辺の功德の事）

たとえば、はるの野の千里ばかりに
くさのみちて候わんに、すこしきの
豆ばかりの火をくさひとつにはなち
たれば、一時に無量無辺の火となる。
このかたびらも、またかくのごとし。
一つのかたびらなれども、法華經の
一切の文字の仏にたてまつるべし。
この功德は、父母・祖父母、乃至
無辺の衆生にもおよぼしてん。

通解

たとえば、春の野が千里ほ
どにも広がって草が生い茂っ
ている所に、豆粒ほどの小
さな火を一つの草に放つと、
いっぺんに無量無辺の火とな
る。（あなたが供養した）こ
の帷子もまた同じことであ
る。一つの帷子ではあるが、
法華經の一切の文字の仏に供
養したことになるのである。
この功德は、父母、祖父母、
さらに限りなく多くの人々に
も及ぶに違いない。